

みずほマーケット・トピック(2019年8月30日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

3. 「本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照くださいませ。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は週初に安値をつけ、その後反発する展開。週初 26 日に 105 円台前半でオープンしたドル/円は、米中間での追加関税賦課を巡る攻防を発端としたリスクオフムードの中で、一時週安値となる 104.46 円まで大幅下落した。しかしその後、トランプ米大統領が中国側から貿易交渉を再開したいと連絡があったと発言すると、一気にドルが買い戻され、106 円を上抜けるとストップを巻き込みながら 106 円台半ば近辺まで急騰した。その後は戻り売りに 106 円付近まで値を下げ、翌 27 日は米中摩擦への懸念が根強い中、ドル/円は 105 円台後半まで下落した。28 日はジョンソン英首相が議会休会を要請したとの報道や、イタリアの政局不安からポンドやユーロが売られ、ドル買いの流れとなったことで、ドル/円は 106 円台前半までじり高で推移した。29 日は米長期金利の低下にドル/円は 105 円台後半まで弱含んだものの、中国が米国に対するさらなる報復措置を取らないことを示唆したことから 106 円台前半まで反発。さらに、トランプ大統領が米中の対立解消に向け、29 日中に「異なるレベル」での協議を行う予定と発言するなど、米中通商協議進展への期待から一時週高値となる 106.68 円をつけた。本日のドル/円は 106 円台前半まで小幅に値を下げている。
- 今週のユーロ/ドル相場はじり安の展開。週初 26 日に 1.11 台半ばでオープンしたユーロ/ドルは、一時週高値となる 1.1164 をつけたが、その後は上述したトランプ大統領の発言を受けたドル買い戻しに 1.11 付近まで下落した。27 日は、独 4~6 月期 GDP 改定値が速報と変わらずマイナスであったことから続落し、ギントス ECB 副総裁が「低金利が長く続く」と発言したことも重しとなり 1.10 台後半で推移。翌 28 日も、ドイツのリセッション懸念やイタリア政局不安に加え、英国の合意なき離脱への懸念からユーロ/ドルは軟調地合いが継続した。29 日には、ラガルド ECB 次期総裁が「ECB には幅広い手段がある」と発言したことから 1.10 台半ばまで下落。その後、クノット・オランダ中銀総裁が資産購入の再開が正当化されるほど欧州経済は弱くないとの見方を示すと一時 1.11 手前まで反発したが、米中通商協議進展への期待からドル買いが強まると、ユーロ/ドルは一時安値となる 1.1042 まで値を下げ、本日も安値圏で推移している。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末		今 週			
		8/23(Fri)	8/26(Mon)	8/27(Tue)	8/28(Wed)	8/29(Thu)	
ドル/円	東京9:00	106.48	104.85	105.98	105.75	106.08	
	High	106.73	106.42	106.15	106.23	106.68	
	Low	105.26	104.46	105.60	105.65	105.83	
	NY 17:00	105.35	106.12	105.76	106.13	106.52	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1084	1.1142	1.1101	1.1090	1.1085	
	High	1.1153	1.1164	1.1116	1.1098	1.1093	
	Low	1.1051	1.1094	1.1086	1.1073	1.1042	
	NY 17:00	1.1143	1.1099	1.1090	1.1077	1.1057	
ユーロ/円	東京9:00	118.02	116.84	117.66	117.29	117.61	
	High	118.17	118.22	117.82	117.67	117.93	
	Low	117.28	116.58	117.21	117.12	117.28	
	NY 17:00	117.44	117.79	117.27	117.53	117.80	
日経平均株価	20,710.91	20,261.04	20,456.08	20,479.42	20,460.93		
TOPIX	1,502.25	1,478.03	1,489.69	1,490.35	1,490.17		
NYダウ工業株30種平均	25,628.90	25,898.83	25,777.90	26,036.10	26,362.25		
NASDAQ	7,751.77	7,853.74	7,826.95	7,856.88	7,973.39		
日本10年債	-0.24%	-0.28%	-0.27%	-0.28%	-0.29%		
米国10年債	1.53%	1.54%	1.47%	1.47%	1.49%		
原油価格(WTI)	54.17	53.64	55.69	55.78	56.71		
金(NY)	1,537.60	1,537.20	1,552.40	1,549.10	1,536.90		

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・ 米国では、6日(金)に8月雇用統計が発表される。7月の非農業部門雇用者数は前月比+16.4万人とほぼ市場予想(同+16.5万人)通りの水準となった。6月の雇用者増が比較的高水準(22.4万人から19.3万人に修正された)であっただけに反動のリスクもあったことを考慮すれば、堅調な内容だったといえる。平均時給の伸びも前年比+3.2%と6月(同+3.1%)からやや加速した。8月に公表された各種企業マインド指数が総じて予想を上回る内容となっており、雇用市場には引き続きタイトさが残る状況とみられる。8月の非農業部門雇用者数については7月並みの前月比+16.2万人、失業率も3.7%と7月(3.7%)から横ばい、平均時給については前年比+3.0%と7月(同+3.2%)比やや減速が市場では予想されている。金融政策関連では、3日(火)に、ローゼングレン・ボストン連銀総裁の講演が予定されている。4日(水)には、ウィリアムズ NY 連銀総裁の講演が予定されている。ボウマン FRB 理事とブラード・セントルイス連銀総裁は連銀主催のイベントで挨拶する予定。また、カシュカリ・ミネアポリス連銀総裁は同市の地域イベントに参加する。エバンス・シカゴ連銀総裁もデトロイト市で開催されるイベントで講演する予定。6日(金)には、パウエル FRB 議長が景気見通しや金融政策に関するディスカッションへの参加が予定されている。
- ・ 本邦では2日(月)、4~6月期の法人企業統計が公表される。1~3月期の設備投資は全産業(金融、保険除く)で前年比+6.1%、GDP 算出にも用いられるソフトウェア除く全産業の設備投資も前年比+6.9%と、いずれも市場予想(それぞれ同+2.6%、同+2.3%)を上回った。その結果、1~3月期の GDP が速報値から上方修正された経緯がある。もともと、5月以降は米中対立が再び深刻化してきている。思いのほか、企業マインドが慎重さを増してきている可能性には注意したい。なお、4~6月期の設備投資については、ソフトウェア除く全産業ベースで前年比+3.2%と市場では予想されている。

	本 邦	海 外
8月30日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・7月失業率 ・7月有効求人倍率 ・8月東京都区部 CPI ・7月鉱工業生産(速報) ・7月小売売上高 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーロ圏8月CPI(速報) ・米7月個人消費支出 ・米8月シカゴ購買部協会景気指数 ・米8月ミシガン大学消費者マインド指数(確報)
9月2日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・2Q 法人企業統計 ・8月製造業 PMI(確報) ・8月自動車販売台数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーロ圏6月製造業 PMI(確報) ・独8月製造業 PMI(確報)
3日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・8月マネタリーベース 	<ul style="list-style-type: none"> ・米8月製造業 PMI(確報) ・米8月ISM 製造業景況指数 ・米7月建設支出 ・米7月貿易収支 ・米6月自動車販売台数
4日(水)	-----	<ul style="list-style-type: none"> ・米地区連銀経済報告(ページブック)
5日(木)	-----	<ul style="list-style-type: none"> ・独7月製造業受注 ・独7月鉱工業生産 ・米8月ADP雇用統計 ・米7月耐久財受注(確報) ・米6月ISM 非製造業
6日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・7月毎月勤労統計 ・7月景気先行指数(速報) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーロ圏2Q GDP(確報) ・米8月雇用統計

【当面の主要行事日程(2019年9月~)】

日銀金融政策決定会合(9月18~19日、10月30~31日、12月18~19日)
 ECB 政策理事会(9月12日、10月24日、12月12日)
 米 FOMC(9月17~18日、10月29~30日、12月10~11日)

市場営業部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2019年8月29日	ユーロ圏投資ファンド統計に見るポルトフォリオリバランス効果
2019年8月27日	円安リスクの点検～警戒すべきトランプ減税第二弾～
2019年8月26日	円高・ドル高という地合い～105円割れを受けて～
2019年8月23日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～9月のパッケージ緩和が濃厚に?～)
2019年8月22日	FOMC議事要旨を受けて～「調整」の誘惑、日銀の経験～
2019年8月21日	ドイツのISバランスは遂に変わるのか?
2019年8月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年7月分)
2019年8月19日	YCC。捨てる日銀と拾うECB
2019年8月16日	週末版(2019年上半期の対米証券投資について～下期以降の景色は大きく変わりそう～)
2019年8月15日	ドイツに引きずられるユーロ圏経済
2019年8月14日	中国の「次の一手」として米国債売却はあるのか?
2019年8月13日	ドル高止まりによる引き締め効果～利上げ17回分?～
2019年8月9日	週末版
2019年8月6日	遂に突破した「1ドル=7.0円」～対抗措置としての元安～
2019年8月5日	米7月雇用統計を受けて～趨勢的な鈍化は明らか～
2019年8月2日	週末版(何の意味もなかったパウエル議長の失言～トランプ関税とインフレ停滞も利下げの理由に～)
2019年8月1日	FOMCを終えて～「1歩譲れば100歩求める」～
2019年7月31日	日銀金融政策決定会合～流行りの「予防的緩和」～
2019年7月30日	円安リスクの点検～英の再国民投票復活などがリスク～
2019年7月29日	ECB政策理事会レビュー～見どころの整理～
2019年7月26日	週末版
2019年7月25日	リブラと金融政策～新興国と信用創造に対する影響～
2019年7月24日	「利下げに囲まれる日銀」と「通貨政策化が進む世界」
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年6月分)
2019年7月22日	ECB政策理事会プレビュー～「目標見直し」は大事業～
2019年7月19日	週末版(実質実効為替相場の現状と展望～「ドルは過大評価」とのIMF評価を受けて～)
2019年7月18日	本邦家計部門の金融リテラシーは低いのか?
2019年7月17日	欧米貿易摩擦こそ正当な貿易摩擦という考え方
2019年7月16日	株価を見なくなったドル/円相場と追い込まれる日銀
2019年7月12日	週末版
2019年7月5日	週末版
2019年7月3日	ラガルドECB総裁就任の読み方
2019年7月2日	日銀短観の読み方～「底入れ」は確認できず～
2019年7月1日	大阪G20を終えて～円相場を駆動するのは株価ではなく金利～
2019年6月28日	週末版
2019年6月26日	円安リスクの点検～大統領選前にトランプは動くか～
2019年6月25日	対外資産・負債残高の近況～令和で経験する大きな変化～
2019年6月24日	利下げ期待とドル/円相場の関係～「98年型利下げ」としても～
2019年6月21日	週末版(日銀金融政策決定会合を終えて～「ドル高の修正」という大きな潮流～)
2019年6月20日	FOMCを終えて～「鏡に映った自分」に怒り続ける大統領～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年5月分)
2019年6月19日	為替市場と金利市場の期待格差について
2019年6月14日	週末版(日銀金融政策決定会合プレビュー～サプライズがあるとすれば・・・)
2019年6月13日	厳しい緩和と競争が予想される日欧中銀
2019年6月12日	FRBと金融市場の「接待関係」は持続可能なのか?
2019年6月11日	ユーロ高を警戒し始めたECB～通貨安欲しさに利下げ?～
2019年6月10日	利下げを促す米雇用・賃金情勢～6月利下げも?～
2019年6月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～シントラから2年で振り出しに戻ったECB～)
2019年6月6日	次のカタリストとしての中国の外貨準備
2019年6月5日	虚しい「フォワードルッキングな政策運営」
2019年6月4日	ECB政策理事会プレビュー～TLTRO3詳細発表へ～
2019年6月3日	「利下げタイミングを当てるゲーム」が始まりそう
2019年5月31日	週末版
2019年5月29日	米為替政策報告書を受けて～ドル高への不満も～
2019年5月28日	円安リスクの点検～円高リスク高まった5月～
2019年5月27日	ECB政策理事会議事要旨～衰える基本シナリオの信認～
2019年5月24日	週末版
2019年5月23日	プレジデントQ&A～メイ辞任、再国民投票、勝負の6月～
2019年5月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年4月分)
2019年5月21日	ユーロ相場の需給と「ドルしか買えない」状況
2019年5月20日	「1ドル=7.00」の攻防再び
2019年5月17日	週末版(円相場の需給環境について～建値通貨別でユーロ建て証券投資が過去最大に～)
2019年5月15日	景気動向指数の「悪化」判断と増税の先行きについて
2019年5月14日	関税引き上げと通貨安～元安対抗にも限界あり～
2019年5月13日	米中協議は実質決裂へ～舞台は大阪G20へ?～
2019年5月10日	週末版(「中央銀行の独立性」とトランプの口先介入～「失言」と割り切った良いのか?～)
2019年5月9日	「相応の理由」なき投機のドル買いはいままで続くか
2019年5月7日	追加関税騒動について～半年間の努力はどこへ～
2019年4月26日	週末版
2019年4月24日	薄氷のドル高相場～賭けるべき「次の一手」は～
2019年4月23日	10連休を契機に考える休日増加の功罪
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年3月分)
2019年4月22日	円安リスクの点検～年後半は「米国 vs. 欧中」～
2019年4月19日	週末版(ユーロ圏PMIを受けて～「底打ち」しても正常化は別の話～)
2019年4月18日	ドル高を容認できない中国の経常収支
2019年4月17日	相次ぐECBの「次の一手」に関するヒント
2019年4月16日	「改善の極み」を指摘したIMF～循環的なピーク～
2019年4月15日	ECB政策理事会～階層化とTLTRO3の取り扱い～
2019年4月12日	週末版(やはり直面した「欧州らしい結末」～臨時EU首脳会議を受けて～)
2019年4月10日	IMF世界経済見通し～「副題」で見る世界経済の変遷～
2019年4月9日	円相場の基礎的需給環境～「均衡」がもたらすレンジ～
2019年4月8日	プレジデント情勢を巡るQ&A～臨時首脳会議を前に～
2019年4月5日	週末版(ドイツがけん引するユーロ圏の減速～大崩れしたドイツ製造業受注～)
2019年4月4日	外貨準備構成通貨の現状(18年12月末)
2019年4月3日	ECBはマイナス金利を階層化するのか?
2019年4月2日	円高を阻む経常収支構造の変化
2019年4月1日	「恵まれた為替環境」を再確認した内閣府調査
2019年3月29日	週末版
2019年3月26日	円安リスクの点検～敢えて考える円安リスク～
2019年3月25日	「自分の尾を追う犬」となったFRBと景気後退の考え方
2019年3月22日	週末版(コミュニケーションが荒れ始めたFRB～本末転倒感の拭えないドットチャート～)